

アジア 歴史・文化チーム 中間発表

～東アジアの未来像の構築に向けて～

東アジアの再検討から構想する未来

宮坂貴彦

伊藤瑛史

清水宣寿

田中亮

宮崎真

高橋由賀利

本日のプレゼンテーション項目

- ①春学期のグループワーク報告
 - アジア歴史・文化グループの進捗状況
 - 文献調査内容

- ②秋学期に向けて各自の目標・テーマ設定
 - 各メンバーが持つ問題意識の契機
 - 秋学期に向けてどのように追求していくか

①春学期のグループワーク報告

○アジア歴史・文化グループの進捗状況

- メンバーが共有しているアジア観・アジア像が大まかなイメージしかなく、具体的にどこから手をつけるべきか迷い、グループとして何を目標に設定して一年間ゼミを進めていくかを決めかねていた。
- →まずは歴史的背景とアジア認識の関係を整理して、共有する作業から行うことにした。
- そのために、日本とアジアに関係する主な古典や原資料を読み、共有し、これまでの日本のアジア観を調べることにした。

①春学期のグループワーク報告

○ 文献調査内容

- メンバー間でアジアについての知識や認識が違ったため、ガイドラインとして米谷匡史「アジア／日本」を読み、共通の土台を作る。

- 原典をメンバーで分担して読み、共有を行う。

→勝海舟『氷川清話』 福沢諭吉『脱亜論』
樽井藤吉『大東合邦論』 岡倉天心『東洋の理想』
宮崎滔天『孫逸仙』 柳宗悦『朝鮮人を想う』
石橋湛山『大日本主義の幻想』 橘樸『支那を識るの途』
矢内原忠雄『朝鮮統治の方針』
吉野作造『北京大学学生騒擾事件について』
尾崎 秀実『「東亜共同体」の理念とその成立の客観的基礎』
竹内 好『大東亜戦争と吾らの決意』『日本人の中国観』

①春学期のグループワーク報告

○アジア歴史・文化グループの進捗状況

- この作業を通じて、近代日本のアジア像はどのようなものであったのかを検証し、またそれがはらむ問題とは何であったかを考える
- →最初に設定したテーマである『東アジアの再検討から構想する未来』の中の“再検討”という作業を春学期は主に行った。

②秋学期に向けて各自の目標・テーマ設定

- 各自の文献調査と共有を経て、それぞれ個別の興味関心が出てきた。
- 現段階で当初設定した未来像を追求する前に、アジアの歴史観をしっかりと踏み固めるテーマ設定が多かったので、秋学期はメンバーの関心別に日本とアジアの歴史観について調べる方向性になっている。
- テーマ設定について、個別に発表します。

宮崎：欧米の植民地政策と日本の占領政策 (主にフィリピンに視界を開く)

○この問題意識に至った経緯

- 東南アジア諸国連合からフィリピンをまず取り上げたのは、2006年に日本とフィリピンとの間で経済連携協定が結ばれたにも関わらず、日本人の多くがフィリピンの文化・思想・歴史について知らないことがあると思ったからである。

○秋学期にかけてどのように追求するか

- 欧米による植民地政策と日本による占領政策でどうフィリピンが影響を受け、どんな問題や強みを備えているかを追究します。そして、フィリピンと日本の今後の交流のあり方を考えます。

清水：朝鮮半島の植民地政策

○この問題意識に至った経緯

- 日韓併合から100年。かつて、日本は植民地政策を行った。日本人と朝鮮人の溝は今尚深い。歴史的変遷の過程から、植民地政策とは何だったのかをもう一度再考する。

○秋学期にかけてどのように追求するか

- 先ずは、日本と朝鮮、朝鮮と日本の二視点から調査。次に植民地政策の観点を含めた調査を行う。具体的な文献としては、矢内原忠雄氏の「朝鮮統治の方針」をベースにしていく。その他、関連する文献の読み込みを重ねて知識の拡充を図る。

伊藤:日中関係における歴史認識の違い

○これまでの問題意識

昨今の日中関係は以前の2, 3年前に比べて中国が日本に対する関心が高まっている。日中の歴史の中で日清戦争、日中戦争といった出来事によって互いによる歴史認識はどのように違っているのかに興味を持った。

○秋学期に向けての追及

秋学期では、主に日本と中国の関係を深く探っていききたい。特に日清・日中戦争について日本と中国、中国と日本との歴史認識の違いについて検討していききたい。そして、中国は日本に対する認識がどのように変化してきたのかを検討していききたい。



田中：

現在の日本とアジアにおける問題の把握と考察

○この問題意識に至った経緯

- 春学期を通して歴史的背景とアジア認識の関係を整理し、共有する作業を行なった。その上で現在の日本とアジアを取り巻く問題がどのように議論されているのか把握し、その課題を発見し、日本とアジアのあるべき姿を考察したい。

○秋学期にかけてどのように追求するか

- 日本とアジア(まずは日中韓)の現在の問題について情報を集め、班員のアジア研究の情報を参考にしつつ、なぜその問題が解決しないのかという点やどのような解決方法があるのか考えたい。

宮坂：戦前から戦後にかけての日本とアジアの構造変化について

- この問題意識に至った経緯
 - 戦前の帝国主義思想が敗戦を経て、冷戦構造下の中で日本とアジアの関係が大きく変化した経緯に興味を持ち、このテーマ設定にした。
- 秋学期にかけてどのように追求するか
 - まずは、丸山真男や竹内好といった思想家や吉田茂、石橋湛山といった政治家が戦後日本をどう捉え、アジアとの関係を考えていたかを追求する。その後、日本が“アジア軽視”の形で果たした戦後復興が戦前とどう違い、現在のアジアとの関係にどのような影響を与えているかを調べたい。

②秋学期に向けての課題

- 各メンバー間のテーマ・問題意識を共有させ、グループとしてのシナジーを忘れない
 - 日本と各アジア地域を調べるメンバーと日本の時代背景を調べるメンバーの相関を意識する
- 文献・フィールドワーク調査の量・質を向上させる



ご清聴ありがとうございました。